

平成24年12月の解説（府県天気予報）

【12月の天候状況】

上旬は、旬の中頃までは日本付近を低気圧や気圧の谷が次々と通過し、旬の終わり頃は冬型の気圧配置となりました。このため、北日本と東・西日本の日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、旬の終わり頃は北日本と東・西日本の日本海側を中心に大雪となりました。東・西日本の太平洋側では旬の中頃までは曇りや雨の日が多くなりましたが、旬の終わり頃は晴れの日が続きました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

中旬は、旬の中頃は日本付近を低気圧が通過し、旬のはじめと終わり頃は冬型の気圧配置となりました。このため、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、大雪となった所がありました。一方、北日本から西日本にかけての太平洋側は旬の中頃に曇りや雨となった日のほかは晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりました。

下旬は、低気圧や冬型の気圧配置の影響で、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雪または雨の日が多くなりました。また、北日本から西日本にかけての太平洋側においても晴れの日が少なく、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、東日本でかなり低く、北日本と西日本で低くなりました。沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、北日本、東日本及び西日本でかなり多く、沖縄・奄美で多くなりました。月間日照時間は、北日本の日本海側と西日本でかなり少なく、北日本の太平洋側、東日本の日本海側及び沖縄・奄美で少なくなりました。東日本太平洋側では平年並でした。降雪の深さ月合計は、北日本の日本海側、東日本及び西日本の日本海側で多くなりました。北日本の太平洋側と西日本の太平洋側では平年並でした。

【12月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 81%で例年値^(注)より 2 ポイント低く、明後日予報は 80%で例年値と同じでした。各地方の適中率では、明日予報は九州北部地方で例年値より 10 ポイント低く、東海地方と近畿地方では 7 ポイント低くなりました。明後日予報は九州北部地方で例年値より 6 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、例年値程度の地方が多く、全国平均は例年値より 0.1 小さい 1.4 でした。最低気温の予報誤差は、全国的に例年値と同じか例年値より小さく、全国平均は例年値より 0.1 小さい 1.5 でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の天気予報の利用にあたって】

2月 は 1月 と並んで 1年 で最も気温が低い月ですが、低気圧が発達しながら日本海から北日本に進むと、強い南よりの風が吹いて気温が急激に上がり、多雪地帯ではそれまでに降り積もった雪によりなだれが発生しやすくなります。一方、低気圧の通過後は強い北よりの風が吹いて気温が急速に下がります。このため 2月 に低気圧が発達しながら日本海から北日本を通過する際には、荒れた天気になるとともに、なだれや気温の急激な変化等にも注意が必要です。各地の気象台が発表する最新の気象情報や注意報、警報に留意して下さい。